

## 新市長就任あいさつ

## 釧路市長

つる ま ひでのり  
**鶴間 秀典**「すべての市民が安心して幸せに  
笑顔あふれるあったかいまち」  
の実現を目指して

## 【略歴】

1974(昭和49)年6月5日生まれ。  
1997(平成9)年3月北海道大学経済学部卒業。2003(平成15)年4月阿寒町議会議員に初当選。2005(平成17)年10月合併により釧路市議会議員に就任。2007(平成19)年4月釧路市議会議員に二選。2011(平成23)年4月釧路市議会議員に三選。2015(平成27)年4月釧路市議会議員に四選。  
2019(令和元)年8月ゲストハウスCRANE鶴代表。2023(令和5)年4月北海道議会議員に初当選。2024(令和6)年10月釧路市長に初当選(11月2日就任)。

市民の皆様、市長就任にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

去る10月27日に行われた釧路市長選挙におきまして、市民の皆様の温かいご支援により、市政の舵取り役を担うことになりました。

今は、釧路市長として市政の舵取りを行っていく責任の重大さに、改めまして身の引き締まる思いがしております。

私が現在進めたいと考えていることについてですが、1つ目として、「笑顔倍増計画」であります。

かつてこのまちの基幹産業と言われていた石炭、水産、紙パルプといった産業は、社会情勢の影響を受けて大きな変化を迫られ、その姿を変えざるを得ませんでした。

世の中はますます情報が価値を持つ時代へ移り変わり、地方都市においてもこの情勢に対峙していく必要がありますし、本市においては、若年世代の急激な減少が、まちとしての機能に大きく影響を与えており、若者の働く場と学びの場の確保を早急に進めていく必要があります。

2つ目として、「世界展開戦略」についてであります。海に面した釧路の利点を最大限発揮できるよう、物流の利便性を高める取り組み

を進めるとともに、地域の農水産物などの輸出の強化を目指し、地元企業の輸出を支援し、外貨獲得を目指します。

3つ目として、「未来の人づくり」であります。「釧路の未来」への投資という視点で、職員の皆さんの短期・長期での派遣や出向を後押しします。また、教育については、グローバル人材の育成が何より大切だと考えており、世界基準で学べる高校の認定を目指すなど、国際化を推進してまいります。

4つ目として、「行財政運営」であります。釧路市はこれまでも、行財政改革に積極的に取り組んできました。しかしながら、さまざまな分野で高騰している物価は、必要な行政サービスや市民生活に大きく影響を及ぼしておりますことから、メリハリのある戦略的な行財政運営を心がけたいと考えております。

「すべての市民が安心して幸せに笑顔あふれるあったかいまちを創っていく。」これが私の目標であり、使命であります。

勇気と優しさを持ち、全身全霊を傾けて市政の運営にあたっていくことをお誓いし、市長就任のごあいさつとさせていただきます。

## くしろ男女いきいき参画表彰 受賞おめでとうございます

問合せ 市役所市民協働推進課(☎31-4504)

今年で9回目となるこの表彰は、女性の活躍の促進、子育てしやすい環境の充実、女性のチカラ(感性や視点等)を生かした地域の活性化等、男女平等参画の推進に関わる活動に取り組んでいる個人、企業、団体および支援している企業、団体等を表彰するものです。

## ●いちりんネットワークさん



「美原一輪車クラブ」出身や在籍中の子どもたちの父母によって構成され、一輪車を通して頑張る子どもたちの支援を目的に体幹教室を運営して参加者相互の交流を深めるとともに、「みはら・かがやき食堂」の運営に参加している団体です。

「みはら・かがやき食堂」は活動8年目を迎え、地域住民の交流の場にもなっているこの活動の中で、子どもたちは小さい頃から調理や配膳・ホールの役割を持つスタッフとして活躍しており、地域のさまざまな年代の人と関わるといった経験が子どもたちの人間的な成長にもつながっています。

2024(令和6)年2月には、子どもたちの発表・交流の機会として「こどもフェスティバル」を企画・運営し、コロナ禍で発表の場が少なかった、文化やスポーツに親しみ、地道な努力を続けてきた子どもたちを励ますとともに、こども食堂の魅力や意義などを伝える活動を行いました。

地域の大人と子どもたちが協力して「みはら・かがやき食堂」を長年運営し、地域の子どもの食育や体力づくり、居場所づくりに貢献している点が高く評価されました。

今後は、これまで構築したネットワークを生かし、さらに飛躍した活動が期待されています。

## ●平野 直美さん



カウンセラーという職業が広く知られていなかった2012(平成24)年から今日まで、釧路市を中心にカウンセラーとして活動し、孤立・孤独化が進む社会の中で、心に悩みを抱える多くの人に寄り添う活動を続けています。

パートナーのアルコール依存症やDV等で疲弊する女性とその子どものケア、産後うつや介護の悩み、発達障害や不登校の子どもを持つ、主に母親の心のケアに力を入れ、子育てしやすい環境づくりに寄与するとともに、大切な人を自死で亡くした人やパニック障害・不安障害を持つ人のための自助グループを立ち上げ、悩みがある人が安心して悩みを共有し、想いを語れる居場所づくりの活動を行い、カウンセラーとしての中心的な役割を担っています。

自助グループなどの活動を通じて、悩みがある人が安心して悩みを共有し想いを語れる居場所作りを行っています。

カウンセラーとして、地域の人の悩みに寄り添い、地道に活動を続けてきたチャレンジする女性であることが評価されました。

今後は、2024(令和6)年に新たに立ち上げた「ほっかいどう不登校サポート研究所」の活動を行うことにより、子育てしやすい環境づくりに対するより一層の積極的な取り組みが期待されています。